



著者 (Elizabeth Lukas) 1942
年ウィーンに生まれる。ウィーン大学でヴィクトール・フランクルに師事。ドイツを拠点に実践家・指導者としてロゴセラピーの理論化と普及に貢献。40冊近い著書を持つ。

(写真: 勝田茅生氏提供)

ロゴセラピー

人間への限りない畏敬に基づく心理療法

エリーザベト・ルーカス 著

草野智洋・徳永繁子訳 / 赤坂桃子翻訳協力

生きる意味の発見を支援する実践技法

◆A5判・290頁・定価3300円

フランクルの高弟が、ロゴセラピーの人間観から実践技法までを解説し、最新の医学的知見とのすり合わせも行う。邦語初の体系的な教科書となる。ロゴセラピーは、人間を身体・心理・精神の諸次元において総合的に捉え、心の病を適切な存在論的次元の下に焦点化し治療に取り組む。とりわけ精神の次元を重視する人間観と技法は、医療と心理の専門家のみならず、教師や宗教者など人と深く関わる全ての者にとって豊かな示唆を与えるであろう。

8月23日発売

【目次より】

第1部 ロゴセラピーの人間観

1. ロゴセラピーの位置づけ / 2. 二次的存在論という概念 / 3. 運命と自由の弁証法 / 4. 「意味器官」良心 / 5. 脆弱性と健全性の弁証法 / 6. 快楽志向性と意味志向性の弁証法 / 7. 事例研究 / 8. 事例研究の二次元的および三次元的解説 / 9. 性格と人格の弁証法 / 10. 自己認識と自己対処

第2部 ロゴセラピーの会話形態

11. 鍵となる言葉 / 12. アンビバレンス / 13. 非受容の問題 / 14. 無知の問題 / 15. 「愛のレトリック」という考え方

第3部 ロゴセラピーの技法

16. フランクルによる神経症の分類 / 17. 不安

神経症の発症 / 18. 不安神経症の治療 / 19. 強迫神経症的な性格を封じる / 20. ヒステリー / 21. 諦めることによる救い / 23. 摂食障害 / 24. 医原性の障害を避けるために / 25. 身体因性・内因性疾患の患者に寄り添う / 26. 運命からの打撃を克服するために / 27. 精神因性の神経症とうつ病 / 28. 実存的空虚から抜け出す道 / 29. 睡眠障害と性的障害はどのようにして生じるか / 30. 自己中心主義に対する処方箋 / 31. 予防とアフターケア / 32. 人生の価値について

第4部 ロゴセラピーの応用

33. よい決断ができることについて / 34. 平和と意味 / 35. 黄金の足跡を残す / 36. ICD-10「臨床記述と診断ガイドライン」とロゴセラピーの専門用語との対応 / 37. 結び

● 5 月 刊 行

クイア神学入門

その複数の声を聴く

クリス・グリノフ著／薄井良子訳 ◆四六判・定価 2970 円

本書は、クイアとキリスト教に関する基本的な概念を平易に解説すると同時に、これら複数の神学的な冒険の歴史と最前線の議論を紹介する。多くの人の疑問に答え、新たな理解と更なる学びへと促す。



● 5 月 刊 行

滝沢克己の現在

没後 40 年記念論集

滝沢克己協会編 ◆四六判・定価 3740 円

滝沢が最晩年に欧州の神学界に問おうとした「純粋神人学」は、没後 40 年を経て今なお読む者を挑発し続ける。それに応答した 14 名の渾身の論考を収録する。



● 3 月 刊 行

奴隷より身を起こして

ブッカー・T・ワシントン自伝

佐柳文男・光代訳、大森一輝解説 ◆四六判・定価 2860 円

20 世紀初頭のアメリカで最も著名な黒人だったワシントン。苦学力行の末に白人上層に賞賛される。黒人保守派の元祖と目される人物の自画像を通じて、差別に対する闘争と迎合の微妙な狭間を考えさせられる。



● 2 月 刊 行

われら主の僕

リベラルアーツの森で生まれ

ICU 伝道献身者の集い編 ◆A5 判・定価 2100 円

国際基督教大学は献学以来、牧師をはじめ数多くの伝道者を輩出してきたことでもよく知られる。この特異な学舎で彼らの献身の志はいかにして育まれたのか。70 名余りの卒業生たちの、遺稿も交えて記される興味尽きない証し。



藤原佐和子著

現代エキュメニカル運動史

ジェンダー正義の視点から読み解く

女性按手やセクシュアリティに関わる問題群は90年代以降の「エキュメニカルな冬」をもたらしたとされるが、そこではいかなる論争と実践が展開されてきたのか。「WCCジェンダー正義」に関する基本原則（2022年）の採択にいたる流れを丹念にたどる。ジェンダー正義の視点から綴られた、これまでになかった新たなエキュメニズムの歴史。
四六判・予価3700円

ブレットラー、エンス、ハリントン著／魯恩碩訳

聖書学と信仰者

クリスチャンは批判的聖書学とどう向き合おうべきか？

ユダヤ教、カトリック、プロテスタントの3人の聖書学者が、旧約聖書を批判的かつ信仰的な観点から読むことは可能であるという確信の下、それをどのように遂行できるのか、または遂行すべきなのかを、古代以来の聖書解釈の歴史から最新の釈義理論までを参照しつつ考察する。
A5判・予価2900円

ミロスラフ・ヴォルフ著／彦田理矢子訳

排斥と抱擁

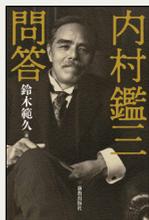
アイデンティティ・他者性・和解についての神学的探求

異質な者を憎悪し、殺し、排斥しようとする者を、私はどのようにして愛し、抱擁することが可能なのか。暴力が猛威を振るう世界の中で和解の道はあるのか。凄惨な内戦を経験したクローアチア出身の著者は、この問題を探求した本書（1996年）を、自らの知的葛藤の記録であると同時に霊的旅路の記録とも呼ぶ。「クリスチャニティウデー」誌が「20世紀で最も影響力のある100冊」に選んだ書の待望の邦訳。
A5判・予価7700円

● 7月の新刊と雑誌

内村鑑三問答

鈴木範久著



70年にわたり内村と向き合い続け、記念碑的な『内村鑑三日録』全12巻を世に問うなど、終始内村研究を主導してきた著者が、「なぜ最初の結婚は破綻したのか」「新島襄から離れたわけは」「天皇をどう見たか」など、更なる解明を要する24の「謎」を取り上げ、その人格と思想に迫る。巻末に、著者が現時点で最も正確と考える年表を付す。
◆四六判・定価2970円

福音と世界

◆定価660円

8月号 特集1 戦争を起ささない責任

特集2 地域事業の拠点としての教会

寄稿者：鄭址錫、栗原茂、斉藤小百合

李省展、佐々木炎、山本光一

連載 インタビューシリーズ 女たちの闘い、田島卓、

今高義也、長尾優、C・J・サンダース&A・ヤーバー、

山崎ランサム和彦

販売部から

小社では2021年8月より新しいウェブショップ（ぜひ検索サイトで「新教出版社 STORES」で検索をかけてみてください）を開設し、主に月刊誌『福音と世界』の最新号とバックナンバー（2019年以降のもの）を取り扱ってまいりました。このウェブショップの開設前は、商品到着後に代金を後払いしていただくことをお客様にお願いしておりましたが、新しいウェブショップでは代金が前払いとなり、お支払い方法の種類も大幅に選択肢が増えました。ご注文から商品の到着までの流れが格段にスムーズになったのではないかと考えており、今後、この新しいウェブショップの活用を拡大していくことが販売部の一員である私の使命と感じております。しばらくは『福音と世界』だけを限定的に扱ってまいりましたが、現在では一部の書籍や特価本、アウトレット本などの取り扱ひも徐々に始めており、8月の社屋移転後にはさらに多くの既刊書籍がこちらのウェブショップからご注文いただけるよう、準備を進めているところです。まだまだ不慣れなことも多く、お客様にご不便をおかけすることもあるかと思いますが、ご利用をいただいた際には、忌憚なきご意見をいた

だけましたら幸いです。（隅田）

編集部から

すでにホームページ等でお知らせしているとおり、小社は社屋を移転します。新宿区から文京区へ地下鉄で一駅分の移動です。新住所は本通信に記載のとおりで、電話とファクスは変わりません。

小社は創業5年目に飯田橋に移り、以来75年にわたり営業を続けてきました。67年には岩井要氏の設計により現社屋が竣工。この建屋で共に仕事をしてきたキリスト教文書センター、日キ販、キリスト新聞社もこのたび同じ場所に移転するという、業界的大移動となります。長年親しんだ地を離れることに寂しさを覚えることは否めません。しかし思えば、小社の前身の一つである長崎書店が呱呱の声を上げたのは、新社屋のごく近所の鶴巻町でした。一世紀近くを経て原点の地に戻ったと言えなくもありません。創業者長崎次郎の初志を振り返り、新たな思いで仕事に励みたいと思います。

8月9日に引越しを開始し、いわゆるお盆休みの最中は荷ほどこきや倉庫の棚入れに集中、19日から新社屋で営業を再開します。この間ご不便をおかけすることをお詫び申し上げます。（小林）

福音と世界

2024年
9

A5判・80頁・定価660円・送料70円
年間予約購読料（送料共）8760円

特集・子どもとキリスト教
地域社会と教会

今なぜキリスト教教育・保育なのか
小見のぞみ

子どもと遊び
キリスト教保育の視点から
東 義也

社会が子どもに望むもの・子どもが社会に
望むもの
キリスト教保育を通して見える
安川千穂

わたしたちは子どもをどう捉えるのか
望月麻生

生きる力を自然の中で
新園舎への思い
小林 休

子どもを受け入れる人
初期キリスト教に
おける子どもたち
吉田 新

ウクライナ戦争即時停戦論と
ドイツのキリスト教会 3
川田洋一

【好評連載】

◆ 女たちの闘い 声をうむく、織りなす 石川治子さん

◆ 証言としての旧約聖書 5 田島 卓

◆ 八木重吉の聖書 14 今高義也

◆ 私は告白する、私の神を 18 長尾 優

◆ 教会におけるイデオログレーション 29 サンダース、ヤバー

◆ 「日本的キリスト教」を読む 29 山口陽一

◆ 新約釈義 ルカ福音書 33 山崎ランサム和彦